



平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年2月12日

上場会社名 福留八ム株式会社
 コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中島 修治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理支援部長 (氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 平成31年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	20,057	1.3	60	81.2	93	73.1	39	
30年3月期第3四半期	20,325	2.6	321	26.0	348	31.5	311	11.6

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 483百万円 (%) 30年3月期第3四半期 668百万円 (24.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	11.73	
30年3月期第3四半期	93.36	

当社は、平成29年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。当該株式併合が前連結会計年度の期首に実施されたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	18,897	6,181	32.7
30年3月期	17,559	6,714	38.2

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 6,180百万円 30年3月期 6,713百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		15.00	15.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,000	0.2	85		50		180		52.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	3,400,000 株	30年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	31年3月期3Q	62,812 株	30年3月期	62,725 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	3,337,245 株	30年3月期3Q	3,337,428 株

平成29年10月1日付で、普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を行っております。期中平均株式につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式併合がおこなわれたと仮定して算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策を背景に、企業収益の好調の持続や雇用・所得環境の改善がみられるなど景気は緩やかな回復基調で推移したものの、貿易摩擦激化への懸念が高まっているほか、原油価格の上昇、さらには7月から9月において台風・豪雨等の相次ぐ自然災害も重なり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、消費者の低価格・節約志向が根強く残るなか、一部供給原料の値上がりに伴う製造コスト等の上昇や人手不足等による労働コスト・物流費の上昇、さらに国内牛肉相場の高値継続もあり、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、「お客様第一にあふれる味覚をお届けします」をモットーに「安心・安全・美味しさ」を追求し、創業100周年に向けて経営理念のさらなる浸透を図るとともに、コンプライアンスを重視した社員教育を実施いたしました。また、製造コスト等の上昇が当社の経営を強く圧迫する要因となっている状況のなか、作業効率の改善や仕入の見直しを重視し、コスト削減努力を継続してまいりました。

販売に関しましては、「JAS特級あらびきポークウインナー」のCM放映を継続し、販売強化を図るとともに、商標登録ブランド「ロマンティック街道」シリーズに加え、オリジナル商品「花ソーセージ」などの重点商品の販売に注力してまいりました。また、2019年3月に創業100周年を迎え、次の100年に向けた統一ブランドとして新ブランド「昂(すばる)」を打ち出し、主力商品である「JAS特級あらびきポークウインナー」「お料理マイスターあらびきウインナー」等にブランドロゴをつけ、販売拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、競合他社との価格競争の激化などにより、200億57百万円(前年同四半期比1.3%減)となりました。利益につきましては、国内牛肉相場の高値継続や製造コスト、物流コスト等の上昇などにより、営業利益は60百万円(前年同四半期比81.2%減)、経常利益は93百万円(前年同四半期比73.1%減)となりました。四半期純損益につきましては、繰延税金資産の取崩しにより、法人税等調整額を1億12百万円計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は39百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益3億11百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業につきましては、消費者の節約志向が続くなか、CM放映の効果による「JAS特級あらびきポークウインナー」や厚みにこだわり、ふっくらジューシーに仕上げた「肉厚ハンバーグ」が堅調に推移いたしましたが、企業間競争の激化等により、売上高は減少いたしました。利益面におきましては、原材料価格の上昇や動力費等、製造コストの上昇により前年同四半期を下回りました。

その結果、売上高は88億61百万円(前年同四半期比1.4%減)、セグメント利益(営業利益)は4億68百万円(前年同四半期比13.4%減)となりました。

食肉事業

食肉事業につきましては、国産牛肉は、生産頭数の減少による高値継続のなか、市場ニーズに合った商品提案をおこない、売上高、販売量とも増加いたしました。国産豚肉は、国内豚肉相場の変動や競争激化により売上高、販売量とも減少いたしました。輸入牛肉は、豪州産、ニュージーランド産牛肉の積極的な提案により売上高、販売量とも増加いたしました。輸入豚肉は、国産豚肉からの代替需要はありましたが、競争激化により売上高、販売量とも減少いたしました。

その結果、売上高は111億95百万円(前年同四半期比1.3%減)、セグメント損失(営業損失)は10百万円(前年同四半期はセグメント利益1億59百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ13億37百万円増加の188億97百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ12億32百万円増加の87億19百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金8億54百万円、商品及び製品1億23百万円、現金及び預金1億22百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1億4百万円増加の101億77百万円となりました。主な要因は、建設仮勘定7億86百万円、繰延税金資産82百万円の増加及び投資有価証券6億49百万円、建物及び構築物49百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ18億70百万円増加の127億15百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ11億35百万円増加の90億49百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金4億14百万円、短期借入金6億22百万円、流動負債のその他2億45百万円の増加及び賞与引当金93百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ7億35百万円増加の36億66百万円となりました。主な要因は、長期借入金8億93百万円の増加と退職給付に係る負債1億47百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億33百万円減少の61億81百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金4億58百万円、繰越利益剰余金89百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の連結業績予想については、平成30年11月12日に公表したのから修正いたしました。詳細は本日別途公表いたしました「繰延税金資産の取崩し及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,236	3,359
受取手形及び売掛金	3,022	3,877
商品及び製品	932	1,055
仕掛品	54	44
原材料及び貯蔵品	231	314
その他	23	85
貸倒引当金	△14	△18
流動資産合計	7,487	8,719
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,106	2,056
機械装置及び運搬具(純額)	655	628
土地	3,625	3,625
リース資産(純額)	240	215
建設仮勘定	-	786
その他	40	48
有形固定資産合計	6,666	7,360
無形固定資産	53	34
投資その他の資産		
投資有価証券	2,860	2,210
繰延税金資産	272	355
その他	373	367
貸倒引当金	△153	△151
投資その他の資産合計	3,353	2,782
固定資産合計	10,072	10,177
資産合計	17,559	18,897

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,542	2,956
短期借入金	4,440	5,063
未払法人税等	64	11
賞与引当金	183	89
その他	683	928
流動負債合計	7,913	9,049
固定負債		
長期借入金	447	1,341
役員退職慰労引当金	312	328
退職給付に係る負債	1,977	1,829
その他	193	166
固定負債合計	2,931	3,666
負債合計	10,845	12,715
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	1,525	1,435
自己株式	△80	△80
株主資本合計	5,640	5,550
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,158	699
退職給付に係る調整累計額	△84	△70
その他の包括利益累計額合計	1,073	629
非支配株主持分	0	0
純資産合計	6,714	6,181
負債純資産合計	17,559	18,897

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	20,325	20,057
売上原価	16,437	16,396
売上総利益	3,887	3,660
販売費及び一般管理費	3,565	3,599
営業利益	321	60
営業外収益		
受取利息及び配当金	36	39
不動産賃貸料	43	44
その他	21	20
営業外収益合計	101	105
営業外費用		
支払利息	51	49
不動産賃貸費用	20	20
その他	3	2
営業外費用合計	75	72
経常利益	348	93
特別利益		
固定資産売却益	120	-
投資有価証券売却益	-	-
特別利益合計	120	-
税金等調整前四半期純利益	468	93
法人税、住民税及び事業税	119	20
法人税等調整額	37	112
法人税等合計	156	132
四半期純利益又は四半期純損失(△)	311	△39
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	311	△39

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	311	△39
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	339	△458
退職給付に係る調整額	16	14
その他の包括利益合計	356	△444
四半期包括利益	668	△483
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	668	△483
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	8,985	11,340	20,325
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	8,985	11,340	20,325
セグメント利益	540	159	700

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	700
全社費用(注)	△378
四半期連結損益計算書の営業利益	321

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	8,861	11,195	20,057
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	8,861	11,195	20,057
セグメント利益又は損失(△)	468	△10	457

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	457
全社費用(注)	△397
四半期連結損益計算書の営業利益	60

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。